



お子様の歯に出来てしまった小さなむし歯。

ちゃんとケアしていたのに気が付いたら進行していて穴があいていた・・・ということにも。

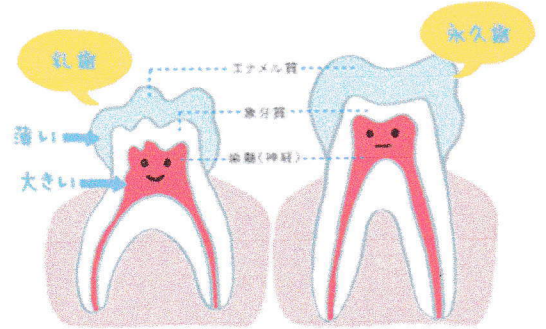
今月のテーマは「子どものむし歯」についてです。

<乳歯(子どもの歯)と永久歯(大人の歯の)の違い>

乳歯はもともと永久歯よりも歯の質が弱くやわらかいのでむし歯になりやすいものです。

歯の表面は体の中で一番硬いエナメル質でおおわれていますが乳歯のエナメル質は永久歯の半分しかありません。

また乳歯は神経が大きく、エナメル質と象牙質の厚みが薄いためにむし歯になると直ぐに神経まで進行してしまう場合もあります。



<食べるものの変化>

お口の中では食事の度に歯が溶ける(脱灰)と溶けた歯を戻す(再石灰化)を繰り返しています。

むし歯がエナメル質内であれば再石灰化で治る可能性があります、その下のやわらかい象牙質まで入るとむし歯は一気に広がってしまいます。

子どもは発達するにつれて味覚が変わっていき、母乳、離乳食、おやつなど食感、味覚が発達し、経験によって味を覚えて行きます。おやつなど甘いものを覚えて行くと量も増え、歯を溶かすスピードも速くなり乳歯のむし歯の進行がはやくなります。

★食生活や歯磨きなど自分でコントロール出来ない時期のむし歯は保護者の管理が大変重要になってきます。

<子どものむし歯の特徴>

- ① 乳歯や生えかけの永久歯はむし歯になりやすい
→歯の質が弱く、やわらかいので、油断すると直ぐにむし歯になってしまいます。
- ② 乳歯のむし歯は進行がはやく広範囲に広がりやすい
→歯の質が弱く、やわらかい上、歯の表面の硬いエナメル質が薄いので進行もはやく広範囲に広がります。
- ③ 短期間で神経まで進行してしまうこともある
→乳歯は神経がい大きく、エナメル質・象牙質が薄いので進行しやすいのです。
- ④ 子どものむし歯は家庭でのケアが大きく影響される
→むし歯の原因菌は主に家族から感染します。
甘いおやつやダラダラ食べ(不規則な食事のリズム)、歯磨きの習慣(仕上げ磨きやチェック)など家庭でのケアがむし歯発生に大きく影響しています。

